

昭和20年7月17日の夜半、疎開先の太田で就寝中、轟音で飛び起きた。兄弟で夢中で夜道を西山荘の近くに避難した。両親がいる日立が攻撃されている。ピカソしてズドンが続く。飛行機の爆音も聞こえないから艦砲射撃と判断したが、経験したことのない怖さであった。

7月18日朝、両親の安否確認のため、日立に自転車で向かった。石名坂を過ぎるころまで、なぜか日立鉾山の大煙突のことばかり気にしていた。大煙突は、日立を空爆するときの目印になっていたと聞いていたからである。昨夜の艦砲射撃でなくなってしまう、今後の日立攻撃に支障をきたすだろうと単純に考えた。ところが、大煙突はそのままの姿で、何事もなかったように立っていた。その時の複雑な気持ちには表現しようがなかった。油縄子付近を通ったとき、大木が砲弾でなぎ倒されているのを見、そのすごさに驚いた。会瀬から我が家に向かったが海岸近くは砲撃による被害がなく一安心した。家にたどり着き、家も両親も健在であることを確認し、ほっとした。休む間もなく、父の自転車と私の自転車をひもで結び、疎開先の太田へと引き返した。

翌7月19日、日立に泊まることにし、自転車で太田を出発した。その道々、大勢の人々が日立方面から逃げるようにして、徒歩で、あるいはリヤカーを引いてくるのに出会った。その数は、何百、何千、何万と続いた。

ふるさと会瀬から

小室節雄先生回顧録 その三

「戦争体験 艦砲射撃と 焼夷弾攻撃」

その日の真夜中、空襲警報のサイレンが鳴り響いた。防空壕に避難した。飛行機の横穴式防空壕に避難した。飛行機も続いた。防空壕から焼夷弾の落ちてくるような感じがした。まるで大雨降っているような感じで、ザー、ザーと大きな音を立て、夜空を覆うような火の塊が落ちてきた。

なぜか怖さをあまり感じなかったのか防空壕を飛び出し自宅に入った。六畳間に焼夷弾が二発、畳を突き破って火を噴いていた。火勢が弱かった。手でつかみだし戸外に投げ出した。屋敷内に在った味噌醤油類を扱う店にも二発落下して、炎が上り、馬車道の線路上の貨物車が炎上して、人だかりして、たので行ってみると、積荷の大豆を奪うように取り出していた。海岸には焼夷弾の燃え殻が、数えきれないくらい砂浜に突き刺さっていた。自宅の前にも不発の1mを超す大型の焼夷弾が転がっていた。担いで砂浜に持ち出したが、近所の小学生数名も後を追った。焼夷弾の横腹を石で破り火をつけた。火の手が上がり、逃げ出した。火の手が上がり、逃げ出した。



完成予定は11月



花いっぱい国体応援
地域の活性化事業

2019年に開催される茨城国体に向けて国体推進委員会を立ち上げ、昨年度から23コミュニティはプランターに花を植えて子どもたちが心のこもった応援メッセージを書いて添えています。

完成予定は11月

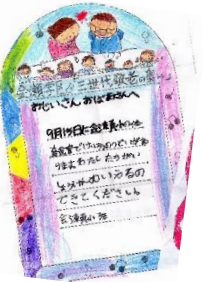
平成30年9月15日(土)
あいにくの雨の中関係者の皆様ありがとうございました。
9時開会 幼・保園、全児童による発表そして大抽選会



かたたたきとつても上手



米寿おめでとうございます



敬老者には
児童からの
メッセージ



会瀬浜太鼓



幼稚園↑

保育園↓



児全童 学年による発表

